

「無痛分娩」を考える 妊婦さんご家族の皆様へ

「無痛分娩」は陣痛の痛みを麻酔を使って和らげるお産の方法です。
ここでは一般的に行われる“硬膜外鎮痛法”^{こうまくがいちんつうぼう}という下半身の痛みを和らげる方法を説明しています。



無痛分娩のメリットは？

- 心臓や肺の調子が悪い妊婦さんの、呼吸の負担を和らげ、体の負担を軽くします。
- 血圧が高めの妊婦さんの、血圧の上昇を抑えることができます。
- 痛みを和らげることができ、産後の体力が温存できたと感じる人が多いと言われています。

無痛分娩のリスクは？

- 分娩に関すること
 - 赤ちゃんが産まれるまでの時間が長くなり、赤ちゃんが産まれる際、吸引や鉗子^{かんし}などの器械を使う頻度が高くなります。
また、陣痛を促す薬を使う頻度が高くなります。
- 麻酔によっておこりうる症状
 - [一般的な症状]
 - 足の力が入りにくくなることがあります。
 - 血圧が下がることがあります。
 - 排尿感が弱くなることがあります。
 - 体温が上がるすることがあります。
 - [まれだが重い症状]
 - 予期せず、脊髄くも膜下腔に麻酔薬が入ってしまい、重症の場合は呼吸ができなくなったり、意識を失ったりすることがあります。
 - 血液中の麻酔薬の濃度が高くなり、中毒症状がでることがあります。
 - 麻酔の針の影響で強い頭痛がおき、場合によっては、処置が必要になることがあります。
 - 硬膜外腔や脊髄くも膜下腔に血のかたまりや膿がたまり、手術が必要になることがあります。

なお、この報告は、2018年3月時点のものです。
担当医から最新の情報を入手しましょう。

無痛分娩Q&A

検索